

## 航海概要報告書

KR0308次航海首席研究員  
富山大学理学部 藤 浩明

本航海は「かいこうビークル」亡失後、初めて実施された研究航海であった。従って、所期の航海計画を変更し、潜水船を使用せずに実施できる調査に限り、主として地球電磁気学的調査研究を行った。

下図に調査実施海域を示す。本調査の目的は、海底長期地球物理観測による北西太平洋深部構造のイメージングである。この目的を達成する為、7月11日に宮古出港後、まず図のA-1及びA-2海域に海底電位磁力計を各々1台ずつ新たに敷設した。その後、A-3海域に向かい、WP2孔内地震計付近で維持している「海底長期電磁気観測ステーション」の機器入れ換えに成功した。その結果、380日を超える海底電磁場6成分及び方位・傾斜・温度変化の時系列を取得する事ができた。昨年取得した340日分のデータと合わせ、これで約2年分の長期データが蓄積できた事になる。これにより、北西太平洋海盆下部の深部構造が精密に決定可能になると共に、この長期観測点が海底地磁気観測所として所期の目的通り十分機能している事が示せた。後者は特に重要な成果であり、世界的にも初めての例になると考えられる。また、A-4海域では、海底における地殻起源の磁気異常を正確に見積もる為、曳航式プロトン磁力計による海面磁気異常の精査も実施した。その際、「かいいい」搭載のシービーム及び海上重力計による地形・重力調査も併せて行った。荒天の為、A-4海域を予定より早く離脱しなければならなかったが、横須賀への帰路、A-1、A-2海域を再訪し、まだ実施していなかった各電位磁力計の音響位置決定を行った後、7月18日に海洋科学技術センター岸壁へ帰投した。

